

平成26年に新たに発生が確認された病害虫(\*)、今後の発生に注意を要する病害虫等

農作物名	病害虫名	発生地域	発生確認年月	発生・被害の概要等
トマト	葉かび病 (レース2.9、レース4.9*)	東青地域、 中南地域、 上北地域、 三八地域	平成25年7月 ～平成25年10月	県内から分離された18菌株の葉かび病菌についてレース検定を行った結果、 <i>Cf-9</i> を持つ葉かび病抵抗性品種に対し病原性を持つレース2.9、レース4.9の発生が確認された。(農林総合研究所)
トマト	インパチエンスえそ斑点ウイルス： INSV (発生拡大)	平川市	平成26年6月	トマトの葉に黒変症状が発生した。イムノストリップで検定したところ、病原はINSVと診断された。(農林総合研究所)
にんにく	白斑葉枯病 (発生拡大)	東青地域	平成26年6月	平成26年東青地域への発生拡大を確認した。被害は甚発生であった。本病はヤマセ気象条件で発生するため、津軽半島のにんにく生産に注意が必要である。(野菜研究所)
いちご	イチゴセンチュウ	中南地域	平成26年7月	平成25年9月の豪雨で灌水したいちご苗(品種非公開)を定植した1生産者で、新葉の凹凸や奇形、花芽の萎縮、果実の奇形が発生し、葉・葉柄組織や花萼部からセンチュウが多数分離された。検鏡による形態観察及び遺伝子診断からイチゴセンチュウと同定された。(野菜研究所)
にんにく	葉枯病 (QoI剤耐性)	上北地域、 三八地域、 中南地域、 西北地域	平成26年9月 (平成24年～25年 分離菌株)	主要産地23地点からニンニク葉枯病葉を採取し、葉枯病菌を分離した。分離菌の形態特性から <i>Stemphylium vesicarium</i> と同定した。138菌株についてQoI剤の感受性検定(アゾキシストロビン及びn-PG加用PDA寒天平板法及び遺伝子診断法)を行った結果、45菌株が耐性菌と判定された。耐性菌は調査した全地域で確認され、特に中南地域では分離菌のほとんどが耐性菌であった。(野菜研究所)
りんご	オオタバコガ (特異発生)	弘前市	平成26年10月	トウモロコシ、えだまめ、トルコギキョウなどを作付けしている畑地周辺のりんご園(1園地、30a)において、りんご果実にオオタバコガ幼虫(農林総合研究所で同定)による食害が認められた。幼虫は果実に浅い孔をあけるように食害し、中心部まで達していなかった。調査時にはトルコギキョウにも本種幼虫による加害が認められた。また、トウモロコシやえだまめはすでに収穫されていたが、園主によるとオオタバコガによる被害が多かったという。これらのことから畑地で多発したオオタバコガが餌不足によりりんごに飛来し、被害を及ぼしたものと考えられた。(りんご研究所)
きく	キク矮化ウイロイド： CSVd (発生拡大)	南部町	平成26年7月	矮化症状が発生した。ICAN法で検定したところ、病原はCSVdと診断された。(農林総合研究所)